

部 Web Data Base を用いた業務統計の試み

1 概要

昨年度助成事業にて開発した Web Data Base 病院ソーシャルワーカー日報統計を、実際の使用に耐えられるか、テストを行い、改良点を探し、より精度の高い、利用しやすいものとしてく。

職場で DSL 等の高速インターネット環境の整っている病院のソーシャルワーカーにモニターとして協力してもらい、実際に使用してもらい、結果をヒアリングする。

2 モニターに対する講習会開催

日時：2004年2月16日(月)午後1時より5時まで

場所：埼玉県立大学 福祉実習準備室

参加者：会場近辺で、職場にインターネット環境のある会員8名

担当者：高田玲子(埼玉県立大学)、伊田(開発業者)、松山(担当委員)

- ・参加者には、事前に日報記載用紙と記載マニュアルを送付しておき、任意の1日を選んで、業務を全て日報用紙に記載して貰っておいた。
- ・当日は、記載してあるデータを、Web Data Base にアクセスして入力することを行った。
- ・福祉実習準備室には、インターネットに接続できるパソコンが10台ある。さらに教員用のパソコン画面を映し出せるようにプロジェクター、大型テレビはあったため、操作方法について、教員パソコンを店ながら説明することが出来たので、とてもやりやすかった。

3 結果

- ・病院登録では、同時に複数アクセスしたところ、IDとデータがばらばらになり、IDとは異なる病院のデータが表示された。同時にアクセスした場合、受付順にデータを表示してしまうというデータ処理プログラム上の問題であり、修正が必要であることが分かった。
- ・患者登録では、病名入力が一番難しく、かなり時間がかかった。分類に ICD- のコードを採用したため、慣れていないことから戸惑いがみられた。また分類が細かすぎて、正式な分類をするのは難しい。検索方法を十分に説明する必要がある。
- ・保険に「無保険」や公費負担の記載が必要である。
- ・援助内容分類については、記載マニュアルにてほぼ理解が得られる。
- ・全員が2例入力するのに10分以上かかる。
- ・病院登録時の混乱もあったが、全体で3時間程度かかった。説明時間もかなりあったが、入力に慣れないと毎日使用するには厳しいかも知れない。
- ・最終的に、日報・月報・年報形式に表示された際、参加者から「おーっ」と歓声上がり、「これが自動で出来るなら入力してもいい。」とほとんどの人が言う。
- ・日報や月報を作成している時間を考えると、全体では毎日入力しておいて、統計がすぐ出るのであれば、このデータベースを利用する価値はあるという評価だった。
- ・病院に戻ってから、引き続き使用していきたいという

参加者からの反応は、良好であり、引き続き利用したいというものであった。
プログラム上の問題を改善することで、十分使用できると思われる。

資 料

平成 15 年 9 月吉日

施設長殿

(社)日本医療社会事業協会
会長 中平大悟

「病院における社会福祉援助活動に関する調査」ご協力をお願い

謹啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。私ども(社)日本医療社会事業協会は主として保健医療分野で働くソーシャルワーカー(医療ソーシャルワーカー)によって構成されている団体です。医療ソーシャルワーカーは、近年特に在宅ケアの推進、病院機能の分化の中で、社会福祉の立場からその役割が注目されており、厚生労働省においても「業務指針」(平成 14 年 11 月)を定め普及に努めているところであります。

この度、平成 15 年度社会福祉・医療事業団助成金(長寿社会福祉基金「特別分」)事業より「病院における社会福祉活動推進に関する調査研究」に關して助成を受けることになりました。この調査研究は全国的な規模(全国約 9 千 500 ヶ所の病院)において医療ソーシャルワーカーの実態を調査しその推進の基礎資料とするものです。ご多忙のところ大変恐縮に存じますが、なにとぞ趣旨をご理解いただきご協力をお願い申し上げます。

なお、ご記入いただきました調査票は返信用部分をご利用の上、平成 15 年 10 月 14 日(火)までに投函いただきますようお願いいたします。

敬具

問い合わせ：〒882-8508 宮崎県延岡市吉野町 1714-1 九州保健福祉大学
熊谷研究室(社)日本医療社会事業協会 社会福祉・医療事業団助成「病院における社会福祉援助活動に関する調査」担当 熊谷忠和
電話 0982-23-5638 メール tkumagai@phoenix.ac.jp

全病院宛 調査 依頼文

都道府県_____

_____病院 施設長殿

ソーシャルワーカーに関する以下の質問にお答えください。

1. 貴院にソーシャルワーカーはいますか(いる・いない)
2. 1.で「いる」場合 _____人(男____人・女____人)
3. 1.で「いない」場合 採用予定の有無(有・無)
4. 3.で「無」の場合 採用困難な理由について以下の項目から順位をつけ番号を記入ください(____。____。____。____。)
人件費 採用基準がわからない 採用の相談窓口がわからない
以前採用したがメリットがなかった
5. 配置について(1)配置(設置)年度(____年)
(2)所属部門(診療・診療技術・看護・事務・独立・他)
(3)ソーシャルワーカー室の名称(____)
(4)雇用形態(常勤____人・非常勤____人)
(5)業務形態(専任____人・兼任____人)
6. 資格について[重複記入] 社会福祉士(____人)
精神保健福祉士(____人) その他(____)(____人)
7. 主に行っている業務について以下の中から占める割合の大きい順に3つ番号を記入ください(____。____。____。)
療養中の心理社会的問題の解決 退院援助 社会復帰援助 受診受療援助 経済的問題の援助 地域活動 苦情の対応 その他
8. 期待する役割について以下からひとつ記入ください(____)
オンブズマン的役割 集客機能 患者満足度への貢献 その他
9. 8.でその他の場合内容を記入ください(____)
ご協力ありがとうございました

全病院宛 調査票

「日報」用紙記入上の留意点

(社)日本医療社会事業協会 位置付け調査研究委員会

これは「病院におけるソーシャルワーカー業務調査」ですので、**病院勤務の方のみ**お答え下さい。

10月 30日(木)の1日だけの業務調査です。ご協力お願い致します。

「日報」の記載ルールは次の通りです。

病院名とSW名を書いておりますが、これは、病院とSWの属性(主な診療科や男女別、経験年数など)について、病院要覧や会員名簿によって後から確認するために書いていただくものです。他の目的には一切使用いたしません。返送された用紙は、統計的に処理した後、破棄いたします。プライバシーには最大の注意を払いますので、よろしくご理解下さい。

1, 個別援助の項目に

1)年齢区分: 10歳刻みで次の番号を記入してください。

0-9歳- 1, 10-19歳- 2, 20-29歳- 3, 30-39歳- 4, 40-49歳- 5, 50-59歳- 6

60-69歳- 7, 70-79歳- 8, 80-89歳- 9, 90歳以上- 10, 不明- 11

2)性別 1 男性、2 女性、3 その他・不詳

3)主病名 **主な病名2つ**を選んで記載してください。援助に関係する病名です。

4)診療科 主な診療科2つを選んで記入してください。

1 内科	9 精神科	18 心臓血管外科	27 泌尿器科
2 心療内科	10 神経科	19 小児外科	28 性病科
3 呼吸器科	11 神経内科	20 産婦人科	29 こう門科
4 消化器科 (胃腸科)	12 外科	21 産科	30 リハビリテーション科 (理学診療科)
5 循環器科	13 整形外科	22 婦人科	31 放射線科
6 アレルギー科	14 形成外科	23 眼科	32 麻酔科
7 リウマチ科	15 美容外科	24 耳鼻いんこう科	33 その他
8 小児科	16 脳神経外科	25 気管食道科	34 不詳
	17 呼吸器外科	26 皮膚科	

5)ケース開始日区分

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
当日	1W以内	2W以内	3W以内	1M以内	2M以内	3M以内	6M以内	1Y以内	1Y超	不明

6)依頼経路 1 本人 2 家族 3 クライアントの関係者 4 医師 5 看護師

6 その他の院内職員 7 院外関係者 8 その他

7)入院日

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
当日	1W以内	2W以内	3W以内	1M以内	2M以内	3M以内	6M以内	1Y以内	1Y超	不明

8)家族属性(入院中の人も、退院したらどこに帰るか、で記入してください)

1 単身 2 夫婦のみ 3 夫婦と子 4 三世代家族 5 居無し 6 施設等入所

「方法」・「対象」

「方法」 面接や電話など、その日の合計の「回数」を記入して下さい。

「対象」 誰と何回関わったのか、その日の合計の「回数」を記入して下さい。(人数ではなく)

「内容」 別紙(2枚) 内容分類 を参照して該当の項目に「1」を記入して下さい。
一つに絞る必要はありません。援助の目的・内容は複数回答で結構です。

「時間」

「合計の時間を分」で記入してください。1人のクライアントに対する援助といっても「面接」だけでなく、「資料を調べる」、「電話や話し合いで交渉したり、依頼したりする」、あるいは「記録を書く」など、様々な行為があります。それらの行為すべてにかかった「合計の時間」です。

2, 個別援助以外の業務

・「グループワーク」 デイケア、患者会などのグループに

・「ケースカンファレンス」 カンファレンスという形式があれば、個別援助に含めず、ここにその時間を記入する。きちんとした形式のないものは、個別援助とする。複数患者のものでも通算時間とする。

・「コンサルテーション」 他スタッフに意見を求められて応じた場合

・「講義」 院内・院外を問わず、講義を行った場合。往復の時間も含む。

・「受講」 院内・院外を問わず、研修や講習にて講義を受けた場合。往復の時間も含む。

・「スーパーバイズ」 SWに対して指導や管理を行った時間。

・「会議」 院内の会議に出席した時間

・「社会的活動」 院外の活動に参加した場合。院外会議、専門職協会活動、地域の会議出席など。
往復の時間も含む。

・「その他」 上記のどこにも該当しないと思われること。

病院業務以外の業務として、兼務になっている場合の「居宅介護支援事業所のいわゆるケアマネ業務」と「在宅介護支援事業所の業務」を挙げています。兼務となっている方のみ記入してください。

記入方法などで質問などがある場合には、申し訳ありませんが、電子メールで下記に連絡してください。また、質問があった場合、質問と回答を協会のホームページに掲載いたします。

日報用紙を11月7日(金)までに返信用封筒でご返送ください。

(社)日本医療社会事業協会 位置づけ調査研究委員会
「病院における社会福祉援助活動推進に関する調査研究事業」

留意点

- 1) この分類は、「援助内容分類」であり、クライアントがどのような問題を持っていたかという「問題分類」ではありません。ソーシャルワーカーがどのような援助を行ったのかという、「援助行為分類」であることに注意して下さい。
- 2) 同じ行為を行っても、援助目的が異なる場合には、選択する項目が異なることに注意して下さい。
- 3) 複数の目的を持った援助であった場合に 該当するすべての項目を選んで下さ
い一つに絞る必要はありません。

援助項目分類についての考え方

1. 医療費に関する問題の解決、調整援助

医療費の支払いに関して、医療保険制度の活用などをおして援助する

2. 生活費等に関する問題の解決、調整援助

医療費以外の経済的問題について解決を図る

3. 受診や入院についての手続き、不安等の問題の解決を援助すること

自院への受診や入院に対して、情報提供などして精神的不安を和らげる

4. 患者療養中の家事、育児、教育、職業等の問題の解決を援助すること。

いわゆる生活課題について安心して療養できるよう社会資源を活用して解決を図る

5. 在宅ケア諸サービスの活用を援助すること。

在宅生活を可能にするために、資源（介護保険、身障など含む）を活用する

6. 家族関係の調整を援助すること。

夫婦・親子など、家族関係の葛藤を調整する

7. 患者同士や職員との人間関係の調整を援助すること。

医師・看護職員をはじめ職員との関係、患者同士との関係について調整援助する

8. 学校、職場、近隣等地域での人間関係の調整を援助すること。

家族・職員以外の人との人間関係の問題について調整援助する

9. 傷病や障害の受容が困難な場合に、その問題の解決を援助すること。

がん、難病、エイズ、精神病などはもちろん、障害に対して受容ができない場合に、公平な立場から情報提供したり、生活の再設計も含めて援助する

10. 遺族への精神的ケア、遺族の生活再設計援助

亡くなった患者の家族等に対して、精神的ケアを行う

11. 診断、治療を拒否するなどの理由となっている心理的・社会的問題についての解決援助

診断を認めないあるいは治療の拒否の原因となる心理・社会的問題について援助

12. 診断、治療内容に関する不安がある場合に、理解促進援助

理解不足などにより診断、治療内容に不安がある場合に、医師や看護師との関係を仲介することや、理解できないことばを説明したりする。

13. 医師等への情報提供

診療に参考になる情報等を担当医師等に提供する

14. 退院・退所後の生活の場あるいは、転院のための医療機関や社会福祉施設等の選定を援助

在宅か転院か、病院・老健などの施設の種類や特定の施設を選定するために、情報収集する。入所・入院依頼する。患者・家族に情報提供などを行い、援助する

15. 住居の確保、改造等住居問題の解決の援助

公営住宅などの情報収集、申し込み。住宅改造について提案・検討・手配など。

16. 復職・復学援助

特別な配慮が必要かどうか、受け入れ準備に必要なことを調整し、スムーズに復帰できるようにする

例1： 具体的援助行為が「身体障害者手帳の申請の援助をした」であった場合、『何を目的にその援助を行ったのか』を考えて、項目を選択すること

- | | |
|----------------------------|-------------------|
| ・ 障害年金を受給し、経済的問題を解決しようとした | 「2.生活費の問題」を選択 |
| ・ 住宅改造などのサービスを利用とした | 「16.住宅確保、住宅改造」を選択 |
| ・ 手帳取得を勧めることで、障害受容の問題に対応した | 「9. 障害・疾病受容」を選択 |
| ・ 重度医療を利用しようとした | 「1. 医療費」を選択 |

例2：自宅に戻るか検討し、在宅サービスを紹介・検討した。 「14」と「5」を選択

謝辞

社会福祉・医療事業団（独立行政法人医療福祉機構）の助成をうけ、長年の懸案であった、病院のソーシャルワーカーに関する全国規模にわたる詳細の調査が実現することが出来ました。

この成果が今後ますます病院のソーシャルワーカーの活動を推進していくために、今後関係者の貴重な資料として活用されていくことを念願いたします。

この調査事業に対して助成下さった社会福祉・医療事業団（独立行政法人医療福祉機構）そして日常業務多忙な中調査に協力いただきました病院管理者、現任ソーシャルワーカーの方々のご尽力に心より感謝申し上げます。

平成 16 年 3 月

病院における社会福祉活動推進に関する調査研究会メンバー（五十音順）

- | | | |
|----|-------|--------------|
| 委員 | 熊谷忠和 | （九州保健福祉大学） |
| | 四方克尚 | （岡山旭東病院） |
| | 菅原 幸一 | （豊郷病院） |
| | 高田玲子 | （埼玉県立大学） |
| | 富樫八郎 | （沖縄大学） |
| | 松井久典 | （大阪府済生会千里病院） |
| | 松山真 | （関西国際大学） |

編集・発行 社団法人日本医療社会事業協会
〒162-0065 東京都新宿区住吉町 2-18 ウイン四谷 607 号
電話 03-5366-1057 F A X 03-5366-1058
E-mail : jaswhc@d3.dion.ne.jp
ホームページ : <http://www.jaswhs.or.jp/>